

第三期武蔵野市コミュニティ評価委員会 第5回議事録

日 時 平成23年6月27日（月） 午前10時～正午
場 所 武蔵野市役所 801会議室
出席者 朝岡委員、江上委員、島森委員、平委員、井波委員、増田委員、
大杉委員（名簿順、敬称略）
事務局（市民協働推進課：森安、江波戸、大橋、志賀）
欠席者 なし
傍聴者 なし

< 次第 >

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 個表の総評について
 - (2) 報告書の目次案について
 - (3) 意見交換
- 3 その他
- 4 閉会

< 配布資料 >

- 資料1 個表のたたき台
資料2 報告書 目次案

< 議事録 >

1 開会

【委員長】 雨の中ありがとうございます。メンバーがおそろいですので、第5回の評価委員会を始めたいと思います。よろしくお願いします。

資料は、次第があって、それから資料1が「個表のたたき台」。各委員からお寄せいただいた、前回の宿題ですね、各コミセンへのコメントを書き加えたものがあります。それから資料2として副委員長におつくりいただいた目次案があります。

2 議事

(1) 個表の総評について

きょうの進め方なのですが、こんなふうにやったらどうかということで提案します。

当面の目標は、個表ですと一番上に各コミュニティ協議会の最初のところに総括案というのがあります。ここを埋めることが当座の目標になると思いますので、協議会ごとに委員からいただいた文面を見ながら、この総括案をつくるということが目標だと思います。あまり事細かに見ていくと、16件あるので結構時間がかかってしまいますので、資料として各委員の所見は示していただいていますので、要点をピックアップしながら評価の点、それから各コミセンが抱えている課題はどんなことかということ、総括案に盛り込む項目みたいなことを抽出してはどうかと思います。多分私の役割になると思うのですが、それを二、三行、もうちょっと長くなるかもしれませんが、各コミセンの総括、評価の総括ということで書き加える。大体そんな手順で進めていければと思います。

後ほど、副委員長におつくりいただいた目次案については見ていただきますが、前回の議論からも、課題を抽出し、これは行政の支援も含めてですが、課題の解決に向けてどんなことができるのかということも書き込むことになっていますから、見ていただく中で各コミュニティ協議会の課題も抽出していければと思います。

限られた時間内で多分できるのではないかと思います、そのような進め方でよろしいでしょうか。

いつも吉祥寺東コミセンからというのもどうかと思ったのですが、順番どおりにいきましょう。熟読してないのですが、私から1つ2つ申し上げて、それにつけ加えていただくというような形でいきましょう。

< 吉祥寺東コミュニティ協議会 >

評価すべき点がいくつあると思うのですが、1つは、地域の課題を積極

的に掘り起こすということをこれまでしてきたこと。それが広報活動と連携していること。広報誌の発行、掲示板の設置という形で広報活動にも熱心に取り組んできた。それがうまくかみ合いながら、地元に対して課題を含めた情報発信ができていくというあたりが一番評価すべき点だと思います。

逆に課題は、これは各コミセン共通と言ってもいいのかもしれませんが、若い活動層がなかなか入ってこない。ただ、この場合は窓口若くは若い人が入っているの、その辺を糸口若くは若い人の活動というのをもう少し育てていけたらいいなというようなことが課題だと思いますが、いかがでしょうか。

【副委員長】 今、ざっと委員の皆さんのものを拝見していて、広報を中心に意欲的に地域課題の掘り起こしを行おうとしている。新しい活動層、担い手を育成しようとしている、ここは評価できるんですけど、気になったのは、確かに広報を一生懸命やっているのはいいんだけど、見ると年4回発行の広報誌と書いてあるので、かなり意味はあるんだけど、年4回で本当に地域の中に、来ない人も含めて浸透できるかどうかは、ちょっと難しいのかもしれない気はします。確かに年4回であれば、コミュニティセンターにコミュニティ協議会があり、活動しているというのは住民にはわかるんですが、恐らく身近なイベントの情報とかいろいろな住民のニーズをうまくとらえながらやっていくには、ちょっと間隔が広すぎる感じがします。

非常に一生懸命やっていることはわかるんですが、広報を充実させるのであればもう少しそこに重点を置いて、隔月であってももう少し間隔を短くして、浸透を図りながらやっていくというように、少し段階的にやったほうがいいのかなという印象を持ちました。非常に表面的なことで申しわけないんですけども。恐らくそれが、地域の非常に厄介な課題について、情報を提供していくという意味でも、みんなで考えようと呼びかけをしていく意味でも、重要なのではないかなという気がします。

コミュニティセンターではないんですが、私も幾つか、地方の公民館を見ていて、公民館だよりとか、これは必ずしも職員がかかわらないものですが、何かを毎月出しているところは結構あります。毎月と、季刊とか年に4回というのは大分印象が違って、毎月だとかなり地域の人たちの結びつきのかなめになっていく。だからやるのであれば、毎月とまではいわないまでも、力を入れてやったほうがいいのかもしれないという印象を持ちました。

【C委員】 けやきコミュニティ協議会も広報誌は年4回ぐらいです。今はホームページに結構力を入れていまして、そこではほんとに早めの即更新みたいな感じでやっています。

【副委員長】 非常にけやきは充実しています、ホームページが。若い人はああいうのがいいのかもしれない。

これはほかのところもかかわるので申し上げるんですが、広報誌というのは、いわゆるメディアギャップ、インターネットとか携帯とかが使えない人たちをフォローできるというのが1つあるのと、もう1つは隠れた意味ですけども、置いておくのではなくて、配るといふところに意味があるんです。手分けをして、全世帯かどうかわからないけれども、協力者を募りながら地域の中を配って歩くといろんな変化が見えてくる。そこで顔見知りになると、ちょっと話を聞いたり話をしたり。スタッフが少ないととても大変なんですけれども、一番大事なものは、そこに載っている情報も大事だけれども、それを住民に届ける、それによっていろんな情報へつながりが生まれる可能性がある、そこが大事です。せっかく広報誌を頑張っているのなら、それも視野に入れてやるということも一つの方法かなという気はします。

【委員長】　　そういえばけやきは全戸配布しますよね。その配布した後に、何か気づいたことがあったか、情報収集みたいなことをしていますか。

【C委員】　　配った住民からというか、地域の方からですか、何か反応。

【委員長】　　協力員が配布した後に、今のお話みたいに、地域の中で何か気がついたことあったかというようなことを。

【C委員】　　地域の中で、そういうことを通じていい点はかなり。配布の人がけやきの場合は増やして、そこでまたつながりもできています。

問題点は、セキュリティが非常に固くてマンションとかに入れず、そういうところにわかってもらえないというのがあります。それはいつも、どうしようかと。配れないから、だれかに会ったときに声かけするとか、住民の方で知り合いでもいれば。そのぐらいしかそこには知らせようがない、場所によっては。ほんとうは平均的にみんなに知らせたい。

【副委員長】　　ちょっと無責任な言い方になるかもしれませんが、私もマンションに暮らしているのでわかるんですけど、マンションは2つの入り方があると思うんです。1つは管理組合にちゃんとお願ひするということです。正式なルートで入れさせてくださいと言うと、地域のものなので配っていただけの可能性はある。もう1つは、マンションという単位ではなくて、大体地域とつながりが深いのは学校、子どもを持っている人たちなので、学校のPTAとか。高齢者であれば、デイケアとかいろんなつながりの中で、マンションの人は外へ出ていく、外とのつながりがある。そういうのを利用して持ち込んでいただく。

いいかどうかは別ですけど、ああいうところは外から持ち込むのは難しいんですけど、一度中へ持ち込むと幾らでもできるんです。

【D委員】　　中の人を引き込まないといけない。

【C委員】　　中の方と親しくならないと。それこそコミュニティ。

【副委員長】 だから、何かきっかけを使って、一つ一つそういうつながりをつくっていく努力をするしかなくて。

【C委員】 そうですね。

あと1つだけ、今お話ししていて。最近、どこのコミュニティセンターも「あそべえ」と関連はしていると思います、各小学校にあそべえがありますので。私はあそべえの委員にもなっているんですけども、この間その会議に出て、学校の広報板にこういう地域のものを張らせてもらえないかと相談した結果、一部だけ今度張ってもいいという許可を得たので、これは画期的だなど。いつもそこの掲示板が使えるのであれば。学校関係、特に子ども関係、そうではなくても地域のことをお知らせしていくには、そういう活用の方法はあると思います。

吉祥寺東町は、配っているだけではなくて、何かそういうことをしているかどうかは分かりません。

【副委員長】 先ほどけやきのところで委員長がご質問されたことは、私も気になっているんですが、配る人が増えているのはとてもいいんですけども、配る人たちに配った後に集まってもらったり、あるいは感想としてこんなことを気づいたとか、フィードバックがどういうふうに行われているのかというのはやっぱり大事だと思っていて、けやきは どうして いますか。

【C委員】 一応、そういう配布の方たちが集まって、そんなに何回もありませんが、交流会的なものもあります。

【副委員長】 そういう情報は生の情報なので大事だと思うんです。ここは、地域の開発問題も含めて固い問題になかなか住民が来ないということですが、多分、行政とも協力しながら考えていくしかないんだろうと思います。これはコミュニティセンターだけではないんですが、学習や住民の公共的な場が、行政から見ると反対運動の拠点になったり政策批判の場になったりすることを一般的に行政は警戒します。逆にいえば、行政が積極的にそういう場を、市民の意見を吸い上げるための場として位置づけていくというような姿勢があるかないかでは随分違うと思うんです。

基本的に、武蔵野のようなかなり市街化が進んでいる地域と地方とは違うと思いますけれども、例えば地域の開発問題について、住民に意見がないということはある得ないんです。それを持っていく場が、コミュニティセンターなどではなくて、いきなり議員のところや別の形、あるいは単なる不満として、それこそツイッターみたいな形でつぶやきとして出てくるというだけの話になるので、いろんなチャンネルがあっただけけれども、それができるだけきちんと受け皿として、コミュニティセンターでの活動や学習が位置づくということが認識されるということが大事です。

そのためには、パートナーシップといえぱパートナーシップですけれども、行政の側も必要な資料やいろいろなものを出したり、あるいはそこをちゃんとフォローするというような姿勢をあらかじめはっきりさせることも、一つの方法です。言っても意味がないと思えば、住民はそういう問題についてそこで発言しようとは思わないはずなので、そういう意味では、1つのチャンネルとしてきちんと位置づいている、意味のあるチャンネルなんだということを理解してもらう努力もあったほうがいいのかもかもしれません。

【委員長】　　そういう意味でいうと、事務局に質問ですが、タウンミーティングを2巡ぐらいやりましたよね。あれはその場のイベントで終わってしまっているのか、それとも市民が意見を持ち寄ることの意味というようなことが住民に少し浸透していつているのか、感触はいかがですか。

【事務局】　　A委員がその担当課長ですが、毎回のタウンミーティングは必ずその後で報告を出しています。どういう意見が出されて、それに対して行政としてはどういう対応をしていますということを報告書にしてお出ししています。ただ、それでもそれが広くそのまま皆さんに受け入れられている格好になっているかというのは、難しいという感じがします。何度も同じことをおっしゃる方もいたりということがあります。

ただ、当初、かなり先鋭化していたものが、続けることによって徐々にやらされていくという、お互いの理解が進んでいくということは、あるのではないかという気がしています。

【委員長】　　タウンミーティングがコミセンで行われていることの意味が、もう少し住民の方々にも浸透していくといいかもしれません。

【事務局】　　先ほどの副委員長のお話ですが、吉祥寺東コミュニティ協議会はずごく禁欲的に対応していると言っています。こういう地域の課題に対して一方の色をつけることはしないで、情報提供や場の提供にとどめたいと。どんなに気をつけても、コミュニティセンターが反対運動の拠点のような感じにどうしてもなってしまうことに対して、すごく禁欲的、犠牲的に対応しているとおっしゃっていました。それでもそういうふうに見られてしまうことがあるので、それが硬派な活動をしているように見えて、ちょっと足を遠のかせているのではないかという自覚をお持ちでした。

【A委員】　　タウンミーティングの担当として、コミセンでやるときはその地域の課題というのは、事前に私たちが入って、役員との話し合いになります。どういった地域課題があるか、あるいは今回のテーマはどのようなことを設定するかといったことを十分に話す時間を取っています。一度持ち帰りいただき、皆さんでテーマ設定などにご意見をいただいた上で、何度かやった上で当日のセッティングをします。よく皆さんが言われているのは、吉祥

寺東コミセンは外環とか下水の問題が今、沸騰しているところです。武蔵野市はコミュニティ協議会自体がその地域の代表ではないという意識は非常にあるんですけれども、東京都とか国のレベルでいうと、アリのバイ的に地域の皆さんのご意見を聞きましたということにコミセンが使われていくジレンマというか、意見としては皆さんに集まっていたいただいているけれども、私たちは地元代表ではないからそういう使われ方はしたくないということをよくおっしゃっている感じがあります。

【副委員長】 恐らくこれはコミセンというより、市のほうでもタウンミーティングのやり方や質について、もう少し工夫の余地があるのかもしれない。

ちょうど新聞に出ていたので言うんですけど、玄海原発みたいなやり方をみんな警戒するわけで、タウンミーティングを市長が2巡されたということで、間隔が開きますよね。市長が来られなくても、その後、その問題について担当する部署や職員がきちんと継続的に入って、要するにその地域がステークホルダーだということがはっきりしていれば、そこできちんとフォローアップしていくような仕掛けが必要です。

その時に、確かに協議会は地元を代表しているわけではないけれども、地元の人たちの意見を吸い上げるという、唯一といってもいいほどの直接的な機会である、民主主義の場、自治の場というふうに位置づけていけば。協議会の役員が決定すれば怒るけれども、協議会という場で地域の人たちが自由に出入りしながら合意形成していくということ自体はだれも反対はしないわけで、そこら辺の丁寧なフォローアップの仕方を考えていただけると、もっと有効になるのではないかなと。深刻な課題ほど、言いたいことがある人がいっぱいいるはずなので、ちゃんと吸い上げる努力をしたのがいいのかもしれない。

【A委員】 特定の課題などでは、説明が足りないというようなご意見がその場に出て、その後、主管課が入って何度もコミセンを場所として説明会を繰り返すことはよくある話です。

【副委員長】 多分、説明会という言い方がちょっとよくないかもしれないです。合意形成の場みたいなね。

今、行政は審議会や委員会を市民参画で始めています。これは一応、最低限の合意形成の場としてフォーマルに認めているんですけど、そこを地域に落としていく方法も工夫したほうがいいのかもしれない。

【委員長】 多分、これまではあまりそういうことが課題になってこなかったんです、合意形成の場という。タウンミーティングをきっかけに、今のお話のようなことができていくというのは、一つ方向性としてあり得ると思

います。これは吉祥寺東コミセンだけの話ではなく全体の課題で、それこそコミュニティとは何かということを考えるときの課題かなと思います。

<本宿コミュニティ協議会>

新しい利用者を開拓するというところに割と努力をしてきて、学校が隣にあるので、特にPTAや子ども利用を開発してきている。そのために新しいイベントを考えた。というようなことをしていると。主要な点はその辺でしょうか、一番目立つのは。

B委員が、親子連れの居場所が定着するといいとお書きですけれども、あそこは建物が新しいということがあり、もっとサロンの使えたらいいかなと思います。

ざっと眺めて申し上げましたが、ほかに、この辺を評価しようということがあればおっしゃってください。

【副委員長】　　ここは世代交代を目指しているということは、世代交代は進んでいるんですか。

【事務局】　　比較的進んでいるほうかなと思います。若い方が何人か入られましたので。若い男性の方も最近、お入りにはなっていますが、女性が多いです、お母さん層ぐらいが。

【副委員長】　　ここは、私も読んだ印象では、小学校に隣接していて地域の人が集まりやすいというところに大きな特徴がある気がします。今のところ、学校との関係もそうだし地元の団体とも積極的に交流しているので、非常にいいことだと思います。けれども、学校に近くて非常に人が出入りしやすい場所ということになると、団体対応も大事だけれども、団体以外の個人の住民が出入りしやすい空間を意識的につくっていくということも大事な要素かなと。

とりわけ、今、若いお母さん方が役員に入ってくる。ちょっとけやきに似ていると思ったんですけれども。そうすると、余計に孤立した親子といえますか、あるいは新しく来た人はどこに接点を求めるか。要するに、地元の団体に所属できないような人たちがコミュニティセンターにふらっと来る。行事でなくてもいいと思うんです。今のところ行事で集めるという話もあるんですけども、実は行事ですらハードルが高くて、とにかくたまり場みたいにして、そこでご飯を食べてもいいことも含めて、もう少しいろんな人が自由にたまれるたまり場機能みたいなものがここにあると、もっと広がりが出てくる気はします。たまたま施設が新しいですから、そういう意味でも可能性があるのではないですかね。

そうすると次に問題になるのは、たまり場という空間をつくっても、ほうっておくと何の意味もなくて、そこに来ている人たちに声掛けをする人がや

っぱり必要なもので、それがまた新しい担い手の掘り起こしにもつながっていくと思います。そういうふうに、この施設の特徴を生かした活動をもう少し工夫してみたらいいかもしれないですね。

<吉祥寺南町コミュニティ協議会>

【委員長】 ここも広報活動が一つの特徴で、毎月出しています。補足すると、地域の諸団体の情報もコミセンニュースに織り込んで一緒に流すということをしています。それから、「みーな」という地域通貨の活動などもコミセンが中心になって担っている。

それから、コミセンの活動という位置づけではなく、地域のさまざまな団体をネットワーク化するような、そういうかなめの役割をコミュニティ協議会が果たしているというのが大きな特徴かと思います。あと、そういうネットワーク化の中で自主防災を割と早めに立ち上げている。それから福祉の会との連携も非常に強い。ただ、担い手層の顔ぶれが変わらないということが大きな課題でしょうか。これはご本人たちも自覚していると思います。

【副委員長】 最寄り駅は吉祥寺駅ですね。この地域に住んでおられる方は割と高層マンション、そうでもないですか？吉祥寺は違うか。

【委員長】 杉並寄りのほうですから、武蔵野の中では割と古い立派な一戸建てが多い地域。

【C委員】 どちらかというとな高級住宅街。私たちからすると、イメージが、吉祥寺南町は。

【委員長】 それと、新しく五日市街道沿いに建ったマンションが少なからずありますけれども、どちらかというとな一戸建てのほうを中心。

【副委員長】 では、古い住民が多いということですね。

ここは注目できるのは、地元の商店街と協力しながら、地域通貨もそうですけれども、地域の振興と結びついているということのような気がします。典型的なまちづくりのやり方という気がするので、その中でこの協議会がどういう役割を果たすかということですね。ただ世代交代といっても、古い町だとすると、どういう新しい担い手が登場するのかが見えてこないんです。

ここの人口は増えているんですか？

【事務局】 吉祥寺南町は横ばいなのではないですかね。

【副委員長】 全体的に古い人が多いと高齢化してきますよね。

【委員長】 2代目が一緒にお住まいというのは比較的多いのではないですかね。

【事務局】 本宿、吉祥寺南町は子どもが減っている地域です。やはりお年寄りが多い。2世代で住んでいる方も割と多いです。大きな屋敷が相続で分割されてというのがけっこう多い場所です。

【副委員長】 これは市の都市計画の問題になるかもしれませんが、古い住宅地が再開発されるときに単純に高層マンションがぼんぼん建つような状況ではないんですね。

【事務局】 ないです。この間のタウンミーティングでも意見が出されていましたが、敷地の最低面積を定めていますので、若い人はそこには住めないというのが。1億円ぐらいないと家が建てられないという場所です。

【委員長】 もともとが200坪なんですよ、1区画。

【副委員長】 それをお聞きして、国立のイメージに近いと思いました。国立も広く分譲して、世代が変わるとだんだん分割して小さくなって。こういうところでどういう担い手を。

【A委員】 商店街も、2代目、3代目が継がないで担い手不足という現状がいろいろ。これはここだけの話ではないんですけど。

【副委員長】 地域通貨を含めて、商店街との協力も、そういう背景があってお互いに助け合おうということなんですかね。地域通貨は都市部の商店街がやると割とうまくいくんです。だから、うまくいくパターンにはまっただけ。

【C委員】 けやきコミセンからすると非常にうらやましい。けやきでも地域通貨に一応は取り組んでいるんですけども、地域に商店街がありませんので。

一般の、住宅の中で地域通貨をやるとどうしても難しいというか、ぶつかる点があります。そういう意味では、吉祥寺南町は地域の特性を生かして非常にうまくやっている。生かしてつながった結果で、コミュニティが地域通貨を通じて何かできていくんだったら、それはほんとうにすばらしいと思います。

【委員長】 五日市街道というよりは末広通りですよ。

【事務局】 末広通り、それからコミセン近くの幾つかの商店が対象です。でも、大分商店もなくなったという話をしていました。

【委員長】 昔ながらの魚屋がすぐ横にありますよね。

【副委員長】 かなりざっくりとした印象で申しわけないんですけども、こういう地域は若い人があまり住みにくい条件が幾つもあるので、今住んでいる人が中高年になっても暮らしやすい街づくりをしていく。そのためには、遠くに行かなくても近辺で買い物ができる、一通りそろそろような、そういう気心が知れた商店街も残っている必要がある。あと、介護施設も含めて福祉や医療のアクセスが割と身近なところで、プライマリーケアのほうですけども、やれるというのが大事だと思います。だから、あまり町の景観を大き

く変えないで、中高年を中心に暮らしやすいまちづくりをする、その拠点としてこのコミュニティセンター、コミュニティ協議会を位置づけていくと。

だから、方向としては非常に正しいんだけど、無理に何か新しい世代を巻き込もうとしなくても、むしろ自分たちのニーズを大事にしながら、できるだけ持続可能な形にしていくのも一つかもしれないですね。そうこうしていくと、どうしても相続が発生したりして、だんだん町の担い手も変わっていくので。

ここはある程度都市計画で守られているとはいっても、ある時期になると当然、町が大きく変わるきっかけが訪れる可能性があって、そのときに地域の人たちが全体としてどういう判断をするかが問われますので、その分だけ今住んでおられる人たちがどれだけ愛着を感じて、住みやすさを感じるかがポイントです。ある意味では新しいことをやらなくても、このまま頑張ってくださいという言い方が一番いいような。

コミュニティセンターにたくさん人を集めようという感じでもないですよ。むしろ地域に出て行って、地域の団体を結びつけるネットワークの中心になろうとしていて、これは非常にいいやり方なので。

ただ、課題で出てくる、親が就労している子どもの居場所のために、年末年始も長く開館できないかと考えているということですけど、お子さんを持った人たちが来たいというニーズがあるんですかね。

【事務局】 はい。この間の震災のときもそうだったんですけど、結局、親が帰宅困難者になって引き取れない子どもたちがコミセンに泊まったという経緯がありました。そういうことを日常的になさっています。学童保育が終わった後、親が帰ってくるまでの間、コミセンを場所として提供して市民の方々がそこで子どもの面倒を見ています。年末年始、早めに閉めてしまうと、親御さんたちはぎりぎりまで働いているので、その方々の居場所がなくなってしまうのではないかとということを懸念されていました。

【副委員長】 理想的には、こういうところは多世代住宅がどんどんできていって、親子3代にわたって生活できるような空間、町にしていくというのが一つの理想なんですけどね。そのためにもこういうニーズは大事にしたほうがいいのかもしれないですね。

<御殿山コミュニティ協議会>

【委員長】 建物は小さいけれども、他団体と連携をしつつ運営している。特に町会です。それと、お楽しみ会という新しい行事を入れて新規の利用者を開拓している。

ただ課題としては、場所柄、マンション、特にワンルームマンションみたいなものが非常に増えていて、そういう人たちをどう取り込んでいくかとい

うことが大きな課題と言っているかと思えます。

【副委員長】 ここはワンルームマンションが多いということは、買い取りではなくて賃借ですよ。そうすると、かなり人々の流動性が高いということですかね。

【委員長】 ワンルームマンションと言いましたが、表通りに面しては、比較的吉祥寺でも古い分譲マンションがあります。それは忘れてはいけません。

【副委員長】 そういう古いマンション住民との交流はあるんですか。

【委員長】 多分、ないと思います。

【事務局】 もう何十年もたっている古いマンション、井の頭公園沿いに大きなマンションがたくさん建っているんですけど、そこにお住まいの方々が高齢化していて、単身になっている方々と接点を持ちたいと思っているんですけども、自分が単身であるということを知られたくない方が割といらっしゃる。なかなかその接点がとれないということ、すごく課題として挙げていました。それはコミュニティ協議会の会長が同時に福祉の会の役員もされているので、その課題が大きいとおっしゃっていました。

【副委員長】 古いマンションだと建てかえの問題とか起こらないんですか。

【事務局】 多分、建てかえは相当難しいだろうと。

【副委員長】 日赤奉仕団に入っている方が10名以上運営委員に入っているということなんですけど、そこら辺との関係があるんですか。

どうもこの地域の課題は、地元の既存の団体や一戸建ての、いわゆる町会に入るような人たちとの交流はきちんとされていて、非常に地域のつながりの拠点になっているけれども、全体的にはマンションがかなり増えていて、古いマンションの住民、新しいマンションの住民との接点がなかなか開けない。町会の拠点としてコミュニティセンターが機能するのであればこれでもいいんだけど、そうではなくて地域全体の住民の拠点になっていくために、どうしても新旧のマンションの住民とのつながりというのが大事で、そこが課題になるわけです。

そのときに、お話を聞くと、古いマンションと新しいマンションではかなり性格が違って、古いマンションに関しては、ちょうど多摩地域でいう多摩ニュータウンと同じような問題が起こっています。建てかえは難しいだろうとはいうけれども、防災の問題も含めて、行政がかなりバックアップしながらもう1回まちづくりの視点から合意形成していかなければいけないでしょう。そこで高齢者や単身者が増えているということになると、それに配慮したまちづくりが必要になってくる。

そういう意味では、それを大事な課題として、とりあえず福祉とか医療、あるいは生活支援のほうからそういうニーズをうまくとらえるような形で、古いマンションの住民をなんとか引き込む努力をする。新しいマンションについては、多分全然層が違い、若い人たちで、ワンルームだと家族でもないですよ。単身者が多いんですかね。そうすると、そういう人たちがコミュニティセンターに来てみようかなと思うきっかけをどうやってつくるか。かなり新しい発想が必要です。そこら辺、全く違うニーズをうまく位置づけながらどうやっていくかということだと思っんです。両方とも非常に難しい課題ということにはわかるんですけど。

多摩ニュータウンでもいろいろと苦勞はしているけれど、古い団地やマンションの建てかえと申しますか、要するに建てかえるまでもなく、みんな孤立化していきますので、ニーズが変わってきたことを受けて、住民がそれなりの受け皿をつくって前向きにまちづくりをしているケースがいっぱいあります。だから、古いマンションについてはそういうノウハウとか使えるはずなんです。そういうところから、このコミュニティ協議会も学んでもらうということがいいのではないですか。

新しいマンションの住民は、多分20代とかいう話になってくるので、これは全く異質なので、今のコミュニティセンターやコミュニティ協議会の枠組みで対応できるかどうか、ちょっとわからないですね。でも、若い世代が全くつながりを求めてないかということ、そうでもないの、そこら辺は少し何かかぎになることがあるのかもしれないですね。

【委員長】 御殿山について、ほかにいかがでしょうか。町内会の方は自営業の方が多いいんですかね。

【事務局】 当初、商店街として構築されていた方々が町内会をなさっていたんですけど、商店はやめてしまってもそこに住んでいて町内会になっているというふうな形ですが、それ自体も徐々に縮小してきているという形態だと思います。

【副委員長】 極めて初歩的な質問ですが、武蔵野市は町内会を復活させずにコミュニティ協議会をつくったという認識なんですけれども、そうすると連合町内会はないけれども、いわゆる個別の地域の町内会はあると考えたほうがいいですか。

【事務局】 すべてではないですし、ごくごく限られたところ。団地自治会も含めて30ぐらい、町内会、自治会という名称のものはございますけれども、全市域をカバーしているわけではありませんし、どちらかという団地自治会という性格のほうが強いかもしれない。それと同時に、同人会的な色彩を持っている町内会のようなものというのがあります。

【委員長】 団地の自治会は別かもしれませんけど、戸建てのところだと全戸加入ということをお前提にしないんです。古くから住んでいる方々の親睦組織という性格が強いんですね。

【事務局】 通り1本に面している方々でつくっている町内会というものもあったりします。

【副委員長】 町内会はもともと任意団体ですから、どういう形でもあり得るんですけどね。要するに、古い町が残っているところへ町内会があると基本的には考えているんです。それとは別に、マンションの管理組合を元にしてマンションの自治会がそれぞれあると。わかりました。

<本町コミュニティセンター協議会>

【委員長】 御殿山と似ていますけど、場所的に駅から非常に近いというのが大きな特徴で、その中でいろいろ課題も抱えているということかと思えます。運営方法、それから行事のあり方等々をいろいろ再検討されて利用者増に結びついている。それから、吉祥寺の繁華街の真ん中にあるということから市民以外の利用者が多いわけですけども、市民にもどういふふうにご利用してもらおうかということでもいろいろ工夫をしてくている。市民といふか地域の住民の方々、地元の方々の利用を考えているということですね。あとは、1階のロビーの使い方も工夫しています。

【E委員】 マンションといっても、ワンルームもあるんですが、比較的大きなマンションでワンルームより少し大きな部屋になっていて、そこには高齢者の方が多くお住まいになっている。ちょっと離れたところのご自宅を売って、図書館の裏のマンションなどは高齢夫婦がお住まいになっていたり、高齢者の男の人、女の人、1人ずつ住んでいるケースが多いです。

今、まちづくりのほうとの話し合いもありまして、地域柄、なるべくワンルームマンションを多く建てないように建設会社に申し入れています。住むよりも違うことに使われるのではないかという懸念があり、それには強く反対といふか、皆で協議して。コミセンの北側に森ビル系のマンションで「サンウッド」といふのができるんですが、その方々とも協議を重ねて、外観、周り、環境の話、それから規約についても相談して建てていただくようにしています。

商業地域ですので、市としてはなるべく1階に駐輪場をという話が出て、最初、駐輪場の計画が一部に出ていたんですが、そこを店舗にさせていただくことで、商業のつながりといふか、それを住民のほうで提案して、そのように少しずつなっています。

【委員長】 それはコミュニティ協議会とマンション会社との間で。

【E委員】 コミュニティ協議会ではなくて、コミュニティ協議会が東部

地区街づくり協議会というところに属してしまして、そことの話し合いで行っています。

【B委員】 東部というのは吉祥寺の東部ということですか。

【E委員】 武蔵野の東部ということですね。吉祥寺南町も入りますし、吉祥寺東町の方も入ってやっているんですが、今のところは吉祥寺南町のところではなくて、特に吉祥寺本町1丁目の辺の話が多いですね。

東町の場合は本町のほうから行くことは少ないんですが、東町の方は本町を通らないと駅に行けないので、本町の環境は東町の住民に対しても大変問題があることです。

【B委員】 個人的な印象ですけど、最近、吉祥寺とか武蔵野周辺というのは古いマンションを若い人が買ってリノベーションして、それで住むというのが割と増えている気がします。老朽化したマンションに高齢者ばかりが住んでいるというより、割と若い人。だから、昼間はあまり武蔵野市内になくて、都心に働きに行っているような人も増えているのではないかなという印象ですが、どうですかね。

【E委員】 そうですね。それもあるんですけど、もともとあった古いマンションにはやっぱりずっといらっしゃいます。それと、世代交代ももちろん起こっています。ただ、マンションというのは、あまり外の人と触れ合いたくないという感覚の人も多くて、駅のほうに皆目が向いています、駅からどこかへ行くという。そういう意味では、意識的に通じていくのは難しいことがあります。

けれども、そういう人たちにも、先ほどC委員もおっしゃったように、マンションに対しては管理組合に目を向けて、そこら辺から情報を流させていただくように、今、手がかりを1つずついこうと思っています。管理組合がコミセンを利用して総会や会議を行ったりして、だんだん顔見知りになってきていますので、それをこちらのほうで活用していきたいと思っています。

広報誌は年4回ですけども、小さな行事に関しては小さなチラシをつくって各マンションに配布しています。少しずつコミセンに足を向けてきてくださっているかなと思っています。

【副委員長】 ちょっと視点が違う。本町のコミュニティセンターに何度か行った記憶があるんですが、施設が古くなっているような気がするんです。施設そのものを改修したり新しくするということは課題になってないですか。

古いというのは、設計とかつくり方自体が。早くつくったので今風のつくりではないというか。バリアフリーの問題も含めて建物の内部構造、外観もそうかもしれませんけど、見直したほうがいいのかないかなという印象は持っていたんですが、使われている方はあんまりそういうことは感じてない。

【E委員】 いや、そんなことないです。まず、エレベーターがないことです。やっときたのに急な狭い階段を3階まで上がらなければいけないのかとおっしゃるんですが、それでも3階にあるいす席がよくて、2階は少し敬遠されます、和室です。

【副委員長】 場所は非常に行きやすい場所。ちょっと裏通りですけど、行きやすい場所にあるのに、とけ込みすぎているというか、いかにも昔からそこあるみたいな感じで、新しい人が行きにくいですよ。新しい人というか、来たばかりの人がふらっと行くような場所ではないですよ。

【E委員】 そうですね。そして、入口が少し下がってますので、余計に感じられると思うんです。ふらっと入ってこられないですね。

もう1つの課題は雨の対策なんです。入口が低くなっていて、階段を二、三段下りるんです。雨が降ると水が入ってくるんです。それがあって今、コミセンとしては雨が降ると気を遣って大変だなというところがあります。

【副委員長】 これはコミセンだけの問題ではないんですけれども、建物そのものの設計か何かの見直しをする方向で、ちょっと時間がかかるかもしれませんが、考えている。そのときに、いわゆるマンションの住民が非常に多くなっているので、マンションの住民がどうすれば来やすくなるか、どういう運営をやればいいのか、それとセットにしながら将来構想を描くような形でやっていただくと。やっていることは非常にいい方向なので、ハードのほうは気になっていたんです。

【委員長】 ハードが気になるところはほかにもいっぱいあります。

【副委員長】 周りのお店も、飲み屋さんが多いんですかね。

【E委員】 はい。まだおさまってきたほうですけど、もともとコミセンの前は私道だったんです。市が今は管理しているんですが、あそこの土地はそうなんです。

【副委員長】 ちょっとわくわくドキドキ、おもしろいんですけど。

【E委員】 その方の持ち物がコミセンの横にあったりするので、わくわくドキドキを抑えて、気軽に立ち寄ってくださる場所にはならないかなと。私たちはその前をお掃除したりして、なるべく仲良くしようと努力して。

【副委員長】 昼と夜では雰囲気は全然違うでしょうね。

【A委員】 最近まで共同ビル化の話があったけど、なかなかうまくいかなかったという。

【E委員】 それが森ビルになってしまった。ただ、市の飛び地がいっぱいあって自転車の駐輪場になっていたりするので、コミセンと何かと一緒にあって1つの建物ができないだろうかとか、いろんな話はあるんです。環境浄化の面では200メートルの範囲内というのがあるので、ぱっとどこかへ

行ってしまうわけにはいかないという感じがします。

<吉祥寺西コミュニティ協議会>

【委員長】 住民懇談会、それから福祉の会や地域社協との連携といったようなことで、比較的、協議会がコーディネーター的な役割を負っているのではないか。それから、窓口対応についてはいろいろ工夫をしていると書かれています。その辺が特徴かな。

課題は運営委員の高齢化。

【事務局】 吉祥寺西は分館があります。分館は、全部で正確に言えば3カ所にあります。中央コミセンも中町集会所がありますので。ただ、運営委員が定期的に当番で窓口に入るという格好でやっていない分館は吉祥寺西と関前です。管理をお願いしている方は運営委員になっていて、かぎを開けているという感じの場所です。

分館が設置される経緯は、いずれももともと市の出張所がありました。市民課の窓口があったんですけれども、その閉鎖に伴って地域のそういう場所がほしいという話があり、市としては地域の集会所みたいなものがないのでコミュニティセンターという位置づけしかありませんから、コミュニティセンターの分館として残していくという格好になっています。

【副委員長】 自己評価の中に全然分館の話が出てこないんですけど、分館があることによっていいとか悪いとかというのは、どういうふうに評価しているんでしょうね。施設管理の面ではやりにくいと思うんです。下手をすると単に集会室が1つ、離れたところにぼんとあるだけになってしまいますので。分館を分館としてうまく活用できるような枠組みがあれば、きめ細やかな地域の拠点になっていくんですけれども、全然言及されていなかったの。

【事務局】 そうですね。確かに運営の中で分館を意識されているということは、あまりないかもしれないです。

【A委員】 単に建物があるだけで人が常駐してないので、周りからは人がしょっちゅう出入りしたり話し声がうるさいというような苦情が来て、運営が難しいということは、ちょっと聞いたことがあります。

【副委員長】 逆に言うと、無責任な言い方になるかもしれませんが、今、協議会で担い手が高齢化していると。どちらかというとも福祉にかなりコミットしているので、これはこれでいいと思うんですけれども、若い世代を取り込もうとする場合に同じ枠組みの中に入れるのは難しいんです。

例えば大学生、高校生を取り込みたいのであれば、思い切って分館の運営委員会みたいなものを協議会の元に立ち上げて、とにかく大学生、高校生にはこっちを使っていいからと。そういう形で特徴を持たせてやっていくとい

う手はありますね。同じスペースや空間の中で年齢やニーズの違う人たちがいるというのは、メリットもあるんですけども、トラブルの元にもなりますし、若い人はとりわけ自由にできないですよ。そのときに単に箱を与えるだけではなくて、むしろその管理、責任を持たせて、ある意味で半分独立した形で自分たちで企画や運営をさせていくというのも、一つの方法かなと思います。そういうニーズは、ちゃんと掘り起こせばある気がします。ただ、大学生や高校生がここの地域にたくさんいるのかどうかわからないものですから。

【事務局】 成蹊大学もすぐそばではあるんですけども。住宅に囲まれているので、その管理の仕方はすごく難しいかもしれないです。

【副委員長】 出張所があったぐらいですから、それなりにわかりやすいところにはないんですか？

【事務局】 いや。わかりにくいところ。すごく奥まったところで、何があるんだろうというぐらいの場所です。

【委員長】 あれが出張所だとは知らなかった。いずれにしろ、何かそういう工夫を。せっかく分館というほかがない施設を持っているので、それを工夫するということは、可能性としてはありますね。

わりと福祉活動に重点を置きながら、窓口が頑張ってコーディネーター的役割をしているというのが一番評価できる点かな。

あと、学童の抜けた後の話はどうなっているんですか。

【事務局】 来年度に工事をしようということになっていますけど、今はそのままの状態でサロンの使っています。将来的にもサロンのような格好で使いたいというご希望です。

<吉祥寺北コミュニティ協議会>

【委員長】 ロビーを生かした活動が幾つかあると思います。割と長いこと、年に2回ぐらいコンサートを、特に地域の人材を生かしてやっているということが特徴でしょうか。それから、さわやか祭りというのを最近、地域のいろいろな団体に声をかけながらやっている。あと、運営委員が全員で窓口を分担するようになった、といったところでしょうか。

それと、運営委員の定年制を考えついて入れたのは一番最初だったですかね。72歳ですか、定年は。

【事務局】 今、73に。窓口の定年制です。

【委員長】 何か館内であったときに対応できないと困るので、一応、窓口に関しては定年をつくるという話でした。かなり協議会の中では議論があったようですけれども。

【副委員長】 C委員の総評の中に、全員が窓口を担当して分担している

のはすばらしいと書いてあるけど、やっぱりこういうのは難しいんですか。

【C委員】 いや。けやきでも問題になることはありますけれども、全員でやるということで全員が同じ窓口の意識を持つということにある程度工夫するとか、研修なり、あるいは伝える方法を考えるなり。そのことだけは常に考えていないと、多くの人数でやるということは、そういうことがあるので。伝えていくという。

【E委員】 そうですね。最初から全員でやると決まっていたけど、コミセンが始まったのなら普通なんですけれども、皆で話し合っただけで途中からというのは、すばらしいことだと思います。窓口をするのなら、運営委員にならなくていいという考えの人もいます。

【C委員】 北コミは最初のころはそうではなかったと思うので、こういうふうになっていったのはすごくいいことだと思います。話し合った結果でなっているのです。

【D委員】 ただ、窓口担当をするという条件のもとで運営委員になるわけですね、話を聞いていると。欠員ができたならだれかに声をかけてということ、何か面接みたいな格好でやって。運営委員が全員窓口を担当するという理念はいいと思います。ただその逆が、運営委員になれないというのはいかがなものかなというのを感じます。

【C委員】 そうですね。窓口を全員運営委員でやるというのは、いろんなものをわかった上でやるという意味で、すばらしいと思ったんですけれども、北コミの場合はD委員がおっしゃったように。

【D委員】 十分運営委員が足りて、ここのコミュニティ協議会の運営に何ら問題がなければ、これはこれで結構なことだと思うんですけど、それで障害があれば困るなど。

【C委員】 そうですね。北コミの話を聞くと、運営委員は数的にそれほど。二十何名だけれども、結構足りているというか。

【D委員】 そういう意味で、質的に足りていると、多分。

【副委員長】 読んだ限りの印象では、ここは運営委員のまとまりがいい。しかも、定年制もあって適当に新陳代謝していて、いつも新しい人を入れながら合意形成をきちんと、丁寧にやっている感じがする。しかも、全員が窓口対応するということは、さっきの広報誌の配布と一緒に、窓口に来た人の反応でいろんな情報が出てきますよね。そういう情報を運営に反映しやすい仕組みがあって、非常にいいやり方をしている気がします。

あと施設的には、体育館がついているという特徴があって、この体育館は管理もやっているんですか、協議会が。そうすると、多分、ほかのコミュニティセンターには来ない人たちがたくさんここに来ているはずで、それが恐

らく、もう少し若い人の参加とか団体ではなくて個人もとかという話になっているから。体育館だとロビーでコンサートをやったりするということがありますね。施設の1階部分が非常にオープンになっている感じがするので、そこをうまく活用した事業や施設運営をしていけば、もっと広がるのではないですかね。あまり体育館の話は出てこないですね。

【事務局】 体育館は施設として使うという対象でしかない感じかもしれませんが、認識としては。体育館は若い者が結構使っているんですけども、しっかり管理をしないと壊されたりするみたいなどころがあって、そこになり苦慮なさっているみたいです。

【副委員長】 恐らく体育館とかホールの場合は団体利用が多くなって、しかもその団体が地元の団体とは限らないんです。そうすると、いわゆる貸し館、貸し施設的になってしまう。結局、管理している側は文字どおり管理の立場でやるために、利用者とうまく接点がつくれなかったり、そこから活動が広がっていかないところもあります。単に体育館を利用してもらうだけではなくて、もう少し利用者側に運営にいろんな形で関わってもらう方法も考えた方がいいのかもしれませんが。場合によったら、地域のそういう団体を意識的に育成したり、スポーツにしてもいろんなレベルのスポーツがあるので、もっと高齢者や子どもも含めてやれるようなスポーツを意識的に事業化して、そこから団体を育成したりして、うまく地元のつながりの拠点にできるような、そういう工夫があったほうがいいかもしれません。

【委員長】 ありがとうございます。北コミはほかにいかがでしょう。よろしいでしょうか。

<けやきコミュニティ協議会>

C委員に総括してもらったほうがいいかもしれないけど。

運営委員の人数、年代、性別は結構幅広く集まっているということ。運営委員だけでなく、地域にさまざまなネットワークが広がっている。それは団体だけではなくて個人も含めてという意味で。多様な行事、イベントで人を引きつけているということ。大まかにそれぐらいですかね。どうでしょう。細かく言い出すともっといろいろあるのかもしれませんが。

【C委員】 私からいうと変かもしれないんですけど、運営委員はどこも世代交代、若い人ももっと増えてほしいとか、そういう声はどこのコミセンにもあるんですけども、ただ若い運営委員が多ければいいかということ。確かに、いつも運営委員はある程度的人数がいてほしいと思いますが、年齢は若い人が多くなればいいというものでもないというか、何と言ったらいいんでしょう。運営委員は高齢になられても、その意識が高ければそれはそれでいろいろな活動が考えられていくと思うんです。ただ、新しい意識、発想、

そういう面では若い人の考えが入ると、それなりの考え方が出てくると、時代がどんどん変わっていく中で、時代に合ったものもある程度の年齢より、若い人たちが加わったほうがよりいろいろなことが考えられていくというのがあります。無理してという大変ですが、年齢はそこまで強く意識することが必要かなと思います。ただ、協力員などをうまく取り入れて、運営委員にならなくても考えられるようなことがあればいいのかなと。

今、若い方も徐々に入ってきている。副委員長のお話などを聞きながらなぜかなと思っていたんですけれども、けやきにはまちづくり局というのが、事業の中に個別に分かれてあります。大きな事業のほかにそういうものがあるって、自主的に、運営委員も含め、そうではない人も入って3人以上が集まって何かをやりたいと言ったときに、まちづくり局の会議の中で認められれば、それを立ち上げることができる。運営委員会にまた諮るんですが。そういう中で、若い人にある程度任せているわけです。

そこではいちご大福をつくろうとかいろんなものがありますけれども、子どもたちが楽しめるような企画的なものをして、全体でなくても、まちづくり局の人が中心にやっている小さい事業は1年を通してあります。そういうものに若いお母さんたちがけっこう参加してくる。ふだんの事業で、お祭りにはいらっしゃっても、そんなに参加してなくても、参加してくる。

そうすると、そこで仲良くなってコミュニケーション的なものは取れているので、何回かやっているうちに、けやきの行事にも参加しないかとか。そういうときの声かけは大事だという話は常にしているので、自然な声かけ。だんだんなれてくるうちに協力員になられたり、協力員ぐらいならということから始まって、協力員をやっているうちに、次に運営委員にもなってみないかとか。それは決して無理に誘わず、ごく自然にということに常に種をまくような感じでやってきて、それが現在につながってきているというのは感じます。

だから、自分たちが活躍できる場、興味があるものがあれば、若い人たちもそれなりに加わってくるのかなと。それを投げかけたら、今度は逆に協議会のほうに投げかけてくれれば、違う行事もやれたり、あるいは一緒にやるということを考えていて、最近では、学生にも声をかけてみようかとかいうふうになってきているので、その辺はあるかなと思っています。

【副委員長】 拝見していて、けやきはあまり困ってないのではないかという印象があったんです。

ほかでもよく見るとあるのかもしれませんが、コミュニティ協議会が一つのコアになっている部分はあるんだろうけれど、そこから組織とか人のつながりが重層的に地域に広がっているという印象があるんです、けやき

の場合は。だから、コミュニティ協議会だけで何かやるというより、いろいろとみんながやりたいことをやっているんだけど、その調整みたいなことをコミュニティ協議会がやっているという印象があるので。そうであれば、年齢バランスとか性別とかあまりそういうことにこだわらず、一番ふさわしい人がやっていけばいいという、そういう感じでいいと思います。

例えば自己評価の中で4)の課題もあまり切実さがなくて。課題はあるんだらうけれども、これをくぐらないととんでもないことになってしまうみたいな感じがなかったものですから。

【C委員】　そうですね。だから逆に、まとまっていて非常にみんな仲がいいというか、和気あいあいとしている。そこを、どう広げていったらいいかというか。あまり仲のいい人たちが固まりすぎないように、外へ発信していくことを常に考えていくということが課題で。今はそれなりの工夫もして、私自身もまちづくり局に新しいものをきのうやりました。けやき塾という雑学大学みたいなものを開いて、今度は幅広い人を呼び込みたいと思うので、自分自身も楽しみながら。D委員もご一緒ですが。

【D委員】　そうなんです。結局、今見ている、どこも高齢化で行事を減らしているんです。ここへ入ると何かやりたいことができるというのが1つメリット。

もう1つは、若い若いといってここに書かれているのは、実は男性でいえば60代なんです。60前後からの人のことをいっているわけ。女性の方はかなり年齢層があるんですよ。60代の前半の人が、例えば今、行事をだんだん減らそうとしているところに、果たして入っていくのか。

私が一番問題にしているのは、知的好奇心がわき上がるようなものがほとんどないということです。フリマとか何とか大会とか、そういうイベントはあるんだけど、行事の中で知的なものが非常に欠けているなど。それを入れていけば、そういう世代の男性が来てくれるのではないかな。あるいは自分たちも何かやっていきたいなという前向きな姿勢が見られるのではないかなという気はします。

【委員長】　それは全般的に言えること？

【D委員】　全般的ですね。

【副委員長】　あとはコミュニティ協議会自体が、10年先、20年先のこの地域やコミュニティセンターの役割をどういうふうに構想するかのような気がするんです。やっていることは、今いいことをやっていると思うし、取り立てて問題もないような気がするんです。だけど、この延長上で、20年先のこの地域でコミュニティセンターがちゃんと役割を果たせるかどうかというのは、多分、どこか飛躍が必要なんです。その飛躍の仕方について、

今はうまくいきすぎているので、あまり切実感がなくて、あえて計画を立てなくてもいくような感じがするんです。マイナーチェンジで行く部分はそれでいいんだけど、マイナーチェンジではなく、どこかでけやきは何か変わったみたいなことが多分必要になってくると思うので、地域も変わりますので、将来を見据えた計画や地域づくりの構想みたいなことを考えたほうがいいのかもしれないです。

【C委員】 今まで地域的なもので徐々につながりが出てきていますが、自主防災組織を大野田地域に立ち上げられたというのがありますので、もう少し地域の課題ということ。これはほんとに思っているんですけど、けやきが地域の何ができるかというのがやっぱり課題なので、自主防災組織の方たちともこれからは。今も事務局にはけやきがなっているんですが、ただ、ほんとうに何ができるかというのは考えていくところなので、そういう面がまだまだ。これからは自主防災組織だけではなくて、いろんな面でどうつながっていきけるか、その辺が課題かなと。

<中央コミュニティ協議会>

【委員長】 地域住民との話し合い、利用者懇談会などが割ときちんと開かれていて、地域の声をコミセン運営に生かしているといったようなこと。それから、イベントも大分整理・工夫をされてきていて、ただ単発で人が集まればいいというイベントではなく、イベントのねらいとかイベント同士の関係みたいなことを考え始めているといったようなあたりが、近年の評価すべき点かと思います。

それから課題ですが、運営上の課題は運営委員の確保、事業が増えすぎて少し負担が大きくなっていたり、効果がよくわからなくなっていたりしているので、それを少し整理することに取り組んでいる。

それから、ここには書いていないかもしれませんが、施設の問題、先ほどの本町のような問題を中央コミセンも書いています。

【副委員長】 先ほど話題になった、事業数を減らさなければいけないということがここでも課題として出ているんですけども、これは基本的に運営委員が確保できないあるいは高齢化していることが理由ですか。

一方で、施設の予約が非常に大変で、抽選しようとしても猛反発があって先着順になっているということが書いてある。かなり部屋の利用度が高くて、その利用をめぐる、要するに貸し室が非常に多くなったことによって事業を減らさなければいけないのかなという、そういうこともないんですか。

ここも別に集会所を管理してますよね。読んだ限りではいろいろとありそうなんだけど、認識している課題があまりにもシンプルで。

【E委員】 私も事業の見直しというところが気になったんですけども、

これは急に事業が膨らみすぎたのを見直すのか、徐々に膨らんできたのを見直すのかというところが、ちょっとわからなかったんですけど。

【D委員】 見直しは必要だと思うんですよ。それはそれでいいと思うんです。

【B委員】 もうちょっと事業の質を考えて整理していく、そういうことですか。

【副委員長】 その質を考えるときに、これを読んでいてピンとこなかったのは、どういう方向で見直すかが出てないんです。つまり、今までの話だと、若い人たちが来てないから若い人たちにシフトする方向で見直そうとか。これはわかりやすいですよ。あるいは、団体中心だからもうちょっと個人が気楽に来られるような方向で見直そうとかというのはわかるんだけど、今のところうまくいっている、運営委員も困ってない、だけど事業の見直しはしなければいけないから見直しをするし、事業数もちょっと多めだから減らしてみたいな、前向きな見直しに見えないんです。そういう点で、この中央コミセンがどういう方向で事業や施設運営を見直そうとしているのかが少しわからないんです。

【B委員】 そうですね。施設の予約が先着だから、早朝6時から並ぶ場合があると書いてあります、抽選も検討したと。ほんとうは抽選にしたいんですかね。そういうのもよくわからないみたいなの。

【事務局】 まず、事業の見直しについては、運営委員の確保に苦慮。現段階で必要はないとおっしゃっていますが、やはり大小2つの館の管理をしていますので、現在の運営委員ではぎりぎりぐらいなんだろうと思います。その中でさらに事業を行っていますので、その負担感がある程度あるだろうということで、負担が大きくなるような事業は減らしていこうと、全体の数を減らしていっていますし、その事業の中身自体も見直しはされているということです。より開かれた事業になれるようにということは考えているということです。

それから、抽選会は、従来からずっと使っている方にとっては、並んでもその日を取りたいという方がいるので、抽選にすることのほうが問題ということがあり、結果として、方法を変えるわけにはいなくなっているのが実態だろうと思います。

【委員長】 反対意見が多かったというのは、利用者の反対意見ということですね。

【B委員】 そうですね。私も4時から30分交代で並んだことがある。絶対その日に取りたいので。

【副委員長】 ちょっと脱線するかもしれませんが、そういう話はいろん

なところであって、行政が直接関与する部分は、面倒くさいのでそれこそ抽選にするか、あるいは今インターネットで予約するような方向になっていますし、機械でやるようになっているので。そうすると、そのレベルで幾ら新しいシステムを考えてもしょうがないんです。

結局かぎになるのは、さっきちょっと申し上げたように、コミュニティセンターの施設もそうかもしれませんが、地域以外の人たち、団体の利用がかなり圧迫している、増えてきていると。それをなかなか排除できないものですから、そのところをどうするか。

例を挙げるとよくないのかな。どこでも聞くのが、例えばちょっとしたホールがあると、ダンスの団体がかなり占有するんです。そうすると、名前は違うけどメンバーはほとんど同じ人たちがたくさんのところを取っていることになって。その気持ちはわかるけれども。それをやると、ほとんどほかの人たちは使えなくなってしまう。だから、そういうケースをどう考えるか。

あとは、どうしてもこれは必要だということを自分たちで合意形成して、優先度を決めていくことができないのか。そんなこと言ったらみんな一緒だと一蹴されるような優先度なのか、それとも、この地域にとってとてもこれは大事なことで、あと何十周年でこれははずせないとか、そういうことを1つ1つちゃんと確認できるような場が、多分ないんだろうと思うんです。そもそもそういうことはうとうしいのでやらないと立てている可能性もあるんですけれども。多分、機械的に幾ら公平にやろうとしても、かえって使い勝手が悪くなる可能性もあるし、そのうち、前の晩から並ぶはめになることだってあるので、それはあまりよくないことなので、もう一つ、そういう利用のルールみたいなものについてちゃんと合意形成できるような仕組みは考える必要があるのかもしれませんが。

これはたまたま中央コミセンで出てきているので、抽選というのは公平な感じがするけれども、一切優先度を配慮しませんからね。その活動の意義を配慮しないやり方なので、そこはあります。

あと、中町集会所は非常に便のいいところにありそうなので、多分これも、中央コミュニティセンターの本館とは違った、特別な個性を持たせた使い方をしたほうがいいのかもしれませんが。どういう使い方がいいかは、ニーズが見えないので今すぐはわかりませんが。駅にも近いし、小さいけれども便はよさそうなので、人が集まるにはよさそうな場所ですよ。

<西久保コミュニティ協議会>

【委員長】 割と大きな館で、おまつりが割と大きいですかね。大きなおまつりが行われていて、それなりに人を集めている。そこに子どもたちの企画を持ち込んだり、地域の団体と連携しながらやっている。しかし、少し事

業がマンネリ化してきているかなという危機意識を持っているといったような感じでしょうか。いかがですか。

【D委員】 一通りいきますか、時間があれだから。何かコメントがあればそれで。

【副委員長】 西久保は運営委員会だけでやっている状況で、しかもマンネリ化していると。だから、新しい協力体制をとっているだけけれども、その協力体制をどういう形で作ろうとしているのかは見えないですよ。例えば課題の中にあるように、小中学校と連携して広義の子育てにもっと取り組みたいということであれば、その協力体制、事業の組み方も含めてもっとそういう組織や世代とつながる工夫の仕方が必要です。もしかすると今、せっかくやっている夏まつりやいろんなイベントも、そういうところに見直す可能性があるのかもしれないです。

あと、ここはおもしろいことに卓球室があるんですね。卓球室というのは卓球だけやるんですね。違うんですか？

【委員長】 いや。地下の割と大きい部屋があって。

【副委員長】 そうですか。いろいろと使えるんですか。

【D委員】 さっきの北コミと一緒に体育館みたいな。

【副委員長】 施設も比較的大きそうなので、もう少し施設の特性を生かした工夫があってもいいかもしれません。ただ、施設は古いんですね。52年設立ですね。

【委員長】 古いほうから勘定して2番目ですね。

【副委員長】 別に古いことによる不便はないんですかね。

【事務局】 それほどは言われてないです。いろんな不具合は出ますけど、それはなんとか改修でクリアしています。

<緑町コミュニティ協議会>

【委員長】 何か皆さん反応していますね。エコなコミセンというところに反応しているんですが、最近、そういった環境ということ意識した活動、あるいは施設の利用ということを考えている。

それから、ここは緑町3丁目の町内会とか緑懇話会という地域の人たちの集まりとかと連携を取りながら、地域課題も考えるようになってきた。あるいはけやきなどと、コミセン同士の連携も図るようになってきている。というところですかね。

【副委員長】 この場合の若い世代が入ってこないときの若い世代というのは、何歳ぐらいのことをいうんですかね。さっきの、男性の場合60だとか。

【D委員】 この若い世代というのは、さっき言った60前後からの男性

です。どこも意味合いはそうです。これは別にコミュニティ協議会だけの問題ではなくて、全般的な話で、ほかでもそうですけど。

【副委員長】 「こどもの遊び場・居場所の工夫」というのが課題に書いてあって、ここで言う若い世代と、運営委員に若い世代をもっと迎えたいというときの若い世代には随分ずれがあって、40歳ぐらいずれがあるので、対応の仕方が当然、異なってきますよね。

【委員長】 私はちょっとD委員と認識が違って、例えば、運営委員に若い世代が入ってこないというときの若い世代って。全般的に60というのはちょっと行きすぎで、子どもを持っているお父さんお母さん、だから30代後半から40代ぐらいという人たちが手薄なので、その辺、もうちょっと入ってくれるといいなと思っているところが多いんじゃないかなと思うんですけど。60代はけっこう間に合っているんじゃないか。

【D委員】 男性でいえばといった、条件的には。男性でいえば60前後の人からが欲しいと。

【委員長】 いや、男性の30代後半から40歳ぐらいですよ。何か力仕事しようと思ってもとか。

【D委員】 いや、そういう人たちもあれなんですけれど、現実に対応のことを考えると、若い男性というか30代、40代、50代ではそこに入れないわけですね。さっきの北コミの窓口全部。ですから、比較的そういうふうに、今欲しい年代といったら、男性で欲しいのはその年代という。60代前後の人たちをと。

【委員長】 窓口ができる人という意味ではそうかもしれない。例えば、何かIT的な技術がもうちょっとほしいとか、さっきのお話みたいに新しい発想がちょっとほしいとかということで、30～40代ぐらいの男性に対するニーズというのもあるような気はします。

【B委員】 緑町に行くと窓口が1人とか、割と手薄な印象が。北コミへ行くと、窓口にいっぱいいる感じがするので、かなり違うと思うんです。若い世代の方が入ってこないというのが、この課題を実際に考えた方と合致しているかどうかはわからないんですけど、前に、コミュニティ市民委員会をやっていたときに運営委員会を見せていただいたことがあるんです。そのときに比較的若い方が、思い切ったことができないんだとおっしゃっていたのがすごく印象にあって、新しい人が入ってきてもやりたいことがあまりできないのではないかなと思ったんですけど、その辺がもしかしたら問題かなと思いました。

【C委員】 ちょっと前にけやきとどんど焼きを一緒にやっているの、けやきのほうは前からやっているのですが、どんど焼きは、自分たち自身が

動いてぜひ成功させたいという思いがいつもありますので、実行委員になる方はみんな積極的に特に力を入れているんです。これから緑町との話し合いにもなってくるんですけども、緑町の方は一緒にやろう、共催とおっしゃるけど、実際に何かをやるときに積極的に皆さんが参加してくれるかというところ、いつもあまり会議にも出てこない。委員長だけが出てきたりとか。

私たちはそれを望んでいるのではなく、みんなの仲間意識、協力してやるというのをつくりたいので、その辺がなかなか。例えば緑町は、こういうことをやればいいんでしょうみたいな、ほんとにそこだけの形でいってしまう。ここの部分を担えばいいんですねとか、当日は何人出しますって。そういうことではなくて、何かをやるときには、そこまで持ってくるに当たってはみんな意識を一緒にしていくということがコミュニティの大切さだと思っているので、その辺でけやきとのギャップができてしまう。また話し合おうと言っているところです。

2年ぐらい前に緑町の運営委員会へ出席させていただいて、みんなでそういうものがほしいんですと正直に投げかけたことがあったら、言われたことは、確かに運営委員会は高齢の方が多くて、「いやあ、疲れちゃうのよね」って。前の日にイベントもあるし、そんなに続けて、私たちは疲れるのでやれませんかと言われたら、これ以上何と話していいのか。

そういう経験もありまして、きっとそういう意味で若い方が入ってもらいたいというのがあるんだと思います。

【副委員長】 施設の図面を見ていたら、ここはほんとうに子育て中のお母さんや若い人が来るのにちょうどいいような設計になっているんです。1階にプレイルームがあって広いロビーがあって、調理室もあり、非常にぜいたくなつくりになっているんです。施設はちょっと古いと思います。2階に行くと音楽室やステージや図書室もあるんです。普通に考えればこういうところは、学校との協力もあるかもしれないけれども、子育て中のお母さんや、場合によっては中高生も含めて、若い人が来やすいような施設設計になっているのにもかかわらず若い人が来ないというのは、やっぱり開き方の問題があつて。

そういう意味で言うと、事業をやるだけではなくて、思い切ってそういう人たちに運営をゆだねていくようなことも必要なのかもしれないなど。

あと気になるのは、図書室があるのに図書室については何も書いてないので、図書室は。

【D委員】 図書室は勉強室、もともと。

【副委員長】 勉強室になっているんですか。じゃあ、ますます子どもたちは来やすいわけで。とにかく、設計上は一番来やすいようにできているの

で、そういうところはもっと大胆な見直しがあったほうがいいのかもしいです。

【C委員】 この緑町で言っている若い世代が入ってこないというのは、運営委員とかそういうことではなくて。

【D委員】 子どもからお年寄りというか高齢者まで、利用者の幅は広い。ただ、若い人に入ってほしいというのは運営委員。特に窓口対応。今12名で、今度3人増えて15名だから、やっぱり少ないです。そういう意味合いです、多分。代弁すれば。

<八幡町コミュニティ協議会>

【委員長】 今、建てかえに向けて動いているという、そういう意味では一番アクティブというか流動的なコミセンです。もともと施設が小さいということをお悩みとして抱えていたわけですが、それは解決しそうだ。こういっては何だけど、自分でお書きになっているところはありきたりのことが書いてあるのですが、地域との連携を積極的に図ろうと、イベント等を通じて頑張っているということですね。その辺が一番特徴ですかね。

課題のところは、組織内部の役員・窓口の相互理解と協力体制が十分ではないといったようなことをお書きです。

【副委員長】 ここは新コミセン建設の設計にどれぐらい、今の運営委員以外の、新しい地域の人たちがかかわっているかというのがかぎになると思うんですけども、そこはどうなっているんですか。

【事務局】 毎回人数は多くなくても、ワークショップ自体は全部終わったんですが、6回開催して毎回30人前後の参加で、半分以上は地域の方かなという気がします。新しく建てるところのご近所の方と、それ以外の方が少し見えている感じですから、今までよりは広がりが見えている気がします。

【副委員長】 そういう人たちがきちんと次の運営委員というか担い手になるかどうかですよ。

【事務局】 何人かはもう、やりましようとおっしゃっている方もいます。

【副委員長】 あとは、委員長が書かれているように、これをきっかけにユニークな管理運営や新規の活動層が広がるかどうか、中身との関係なんです。そういうことは意識されて、大分議論されているんですか。

【事務局】 はい。まだまだ模索をされていますけれども、そういったことは意識をされています。

【副委員長】 頑張ってくださいとしか言いようがない。

【委員長】 ぜひ相互理解と協力体制が十分に行くようにしていただきたいということです。

<関前コミュニティ協議会>

学校が近くにあるので、子どもの利用に割と重点を置いているということですかね。しかし、共催事業はしているけれども、地域との連携はあまりうまくいっているとも言えない。関前はよくわからないな。

あと、あいさつ運動というのが成果を生んでいると書いています。あいさつ運動を、関前の方は最近、強調しますね。それなりに効果も上がっているんでしょうかね。

B委員は関前も使います？

【B委員】 そんなに使わないですね、関前は。うちは緑町なので。使うところは緑町と西久保と中央ぐらいです。

【委員長】 ここ、ふらりと入りやすい雰囲気ですか。

【B委員】 ムーバスの待ち時間に利用すると書いてあるので、入りやすいのかな。

【委員長】 ムーバスのバス停はほんと目の前ですね。

【D委員】 雰囲気はいいと思いますよ。割と1階のロビーも広いし。

【B委員】 このあいさつ運動はどの程度成果が。あいさつ運動をしたことでどっと人が来るとか。

【事務局】 あいさつ運動自体は、関前南小学校の運動として、小学校ぐるりを通っているときには必ずあいさつをしましょうと学校の方がしているんですけど、それと同時に、窓口に見えた方に対して窓口の担当が必ずあいさつをするということで、それで割とアットホームの感じになっているとおっしゃっています。

【B委員】 来た人にあいさつするの、普通ですよ。

【D委員】 あいさつの仕方とかさ、いろいろあるんじゃない？

【E委員】 あいさつしても、利用者はしない人がいっぱいいる。ずっと入って。それは問題としてあります。

【事務局】 そういふのはすごく積極的に声をかけています。

【E委員】 だから、顔を見て声をかけるように、きっと努力しているのかなと思うんですけど。

【委員長】 そうすると、もともとは学校の取り組みにコミセンも乗ったという感じですかね。

【事務局】 学校の周囲の活動として学校であいさつ運動をしていて、コミセンはコミセンとして、窓口に来た方には必ず声をかけるようにして。不審者対策ということも最初はあったとおっしゃっていました。子どもがすごくたくさん入ってくる場所なので、それをすごく気にしているのかもしれない。

【委員長】 課題として挙げているのは、やっぱり運営委員の負担が重い

ということ。行事を担当グループ制にしていると書かれているんですが、担当以外の行事に無関心なのは相互の連携、グループ同士の間での連絡調整みたいなことはどうなっているのかなと思います。

<西部コミュニティ協議会>

団体間のネットワークづくりに取り組みつつある。すぐ裏が亜細亜大学という土地柄でもあり、学校を中心に、小学校、PTA、青少協、児童館、保育園、幼稚園、中学、高校、大学、老人会、地域社協というふうに、子どもから大人まで参加してくれる行事がある。

課題は、集合住宅、マンション、団地にどう関係をつくっていくかと挙げています。

その他のところに、乳幼児連れの方の和室の利用が増えてきていると書いてあるんですが、事務局で具体的にご存じですか。

【事務局】 ほかのところでもよく話に出ますけれども、かつては高齢者の方が和室というイメージが強かったんですけれども、赤ちゃんを連れてきて、赤ちゃんが寝っ転がっていても安心できるということで和室を若いお母さん方が使われる件数が増えてきているということだと。

【委員長】 それは、団体で利用する場合ということですか。和室だと個人利用はないですね。

【事務局】 何人かのお母さん連れで集まってきてという感じだと思います。

【E委員】 本町もそうですけど、2階の和室全室、全部机を出して、自分たちは話しながら、周りを子どもが走っているという。そういう場合は畳のほうがいいというような感じで利用されています、よく。

【A委員】 今、全部のコミセンで茶室とか和室の利用率が非常に低い。茶室は特にほとんど使われてないというようなことが書かれているので、これはここだけに限らず、新しい工夫というのを何か考えられないですかね。

【E委員】 そうですね。うちの場合は茶室、3階にあるんですけれども、そこに小さなホワイトボードを置いて、今までは敬遠されがちだったんですが、英会話のグループとかはボードを使いますので、その人たちには大変好評です。そうした場合はその部屋を利用されることが増えてきました。茶室はちゃんと閉め切られているので、声が出ないということもあって、逆にそれがいいという方も増えてきています。

【B委員】 高齢者の方はかえって和室だとよくないみたいです。座るのがわりと大変だったりするから。いすを置くとか、その辺工夫しているところがありますよね。

【E委員】 そうですね。座いすのちょっと高いのを置いたり。利用者も、

机を出すのが負担になる方もいらっしゃるから、いろいろなので。本町は和室に置く昔の机があります、ちゃぶ台の大きいのを2つ置いて。それは倒すだけでいいので、そういうのもいいかなと。利用者のニーズもいろいろなので、それに対応しています。

【C委員】 茶室も、今おっしゃったようにほかの会議に使えたりとか、何かちょっとした話し合いの場所に使えたりとか、そういうふうに使っていいですよというような感じであれば。どこも今はそのようになさっているんでしょうかね、ちょっとわかりませんが。

【B委員】 茶室と聞くと利用が限られるのかなと思いますよね。

【C委員】 ほかに話し合いの場所として使ってもいいんですよというようなものがあると。そのようなPRとか工夫はここで、西部でされているのか。

【D委員】 西部は、茶室の利用率が著しく低くと書いてある。だから、そういう使い方をされてないわけです。茶室としてしか。今のようなほかの、空いているときに。

【E委員】 茶室という言葉になっていると使いづらい。うちは部屋の名前がついているので、「梅の間」とか。茶室を借りるという感じではなくて、梅の間を借りるといった感じなので。

【委員長】 それだけでも随分印象が違いますよね、借りるほうから見れば。

【E委員】 そうですね。かえって音が漏れませんかよというふうになんとつけ加えて言うと、そのほうがいいわねということでお借りになったり。

【C委員】 音が漏れないという意味では、話によってはいいのかもしれない。

つい先日、武蔵小金井の新しくできたばかりの文化センターというところに行ってきたら、そこは茶室が地下にあるんですが、たまたま前の稲葉小金井市長が見えていてお話をしてくださいました。茶室はそのとおり、設計するときには茶室としてつくるけれども、茶室の隣に控え室というのかお茶に入るための部屋を結構大きく取ってあり、ふすまを開けるとつなげて使える。茶室だけでは利用が下がるだろうということで、会議にも使えるように考えたとおっしゃっていました。多分、茶室だけだとあまり利用率がないんだろうと。その辺は必要かなと。

【B委員】 それでもやっぱり茶室をつくるというのは、何かねらいがあるんですかね。

【C委員】 文化センターの場合はやっぱり文化的ということで、お茶をやる方がお使いになる。でも、コミセンはちょっと違うのかなと。

【E委員】 今ほんとにお茶をする方が減りました。

【委員長】 それはやっぱり20年30年の変化ですよ。

<境南コミュニティ協議会>

運営委員、あるいはあそこは協議委員という言い方をするのかな、選び方が少し違うというのが一つの大きな特徴で、それを少し変えてきているといったこともあります。それから、ここは割とよく話し合いをしながら活動の方向なども考えているというのが特徴でしょうか。

でも、利用してない方の意見がなかなか聞き取れないので、どうすればいいとか、利用申し込みの簡素化ということも、考えているようです。今、そんな大変なのかしらということもちょっと思いますが。

割とよく話し合うコミセンかなと感じたりはしています。

境南が一番古いんですよ。

【D委員】 個人枠というのが、運営委員、今まで入りづらかったらしいんだけど、昨年、私たちと同じ団塊世代でもともと地元の人なんですが、その人が昔のクラスメートとかに声をかけて、去年、四、五人団体で。それぐらいだったら入りやすいんですね。1人で入るのではなく、四、五人集めて入ったと言っていた。そういうところもこれからは出てくるのではないかなと思います。ここが、そういう意味で、比較的男性でも若いというか、そういう人が何人か入ってきたという話。

【委員長】 D委員の言うところの若い男性が多いんですよ。

【副委員長】 ここは施設を見ると、意外と集まりに使えるような施設が少ないですね。体育室が大きく取られているのと、学童クラブ室というのがあって、これは別でしょうからコミセンが使うとはならないですよ。あと屋上も結構取られているので、よく見ると、児童室や厚生室というのが何なのかよくわからないんですけども、和室が1つと会議室と2つと講座室が1つ。思ったよりも利用できるスペースが少ないのではないかなという印象があります。これは古いせいかもしれないんですけど。そこら辺はあまり困ってないんですかね。

【事務局】 こちらの学童保育は学内に移転をしましたので、来年度からそこを少し改修して多目的に使えるようにしようという話になっています。

【副委員長】 ここは空くわけですね。そういう意味では、使い方の工夫を、せっかくなので、少ししていただいたほうがいいかもしれません。

この児童室というのは何ですか。普通の部屋ですか。

【事務局】 そこは子どもが遊ぶ部屋です。プレイルーム。

向いの厚生室は、今はパソコンが置いてあってパソコン学習会などに使っています。学童の跡にその厚生室の機能を移して、ほんとうはそこをロビー

的に壁を抜いて使いたいのですが、構造上、壁が抜けないので、委員長が書いているような、ふらっと入れるロビー的な空間を確保するのがなかなか難しいというのはあるかもしれません。

＜桜堤コミュニティ協議会＞

【委員長】 小さい館で、場所的に武蔵野市の外れ、目の前は小金井公園という場所ですが、利用者の要望を比較的よく取り入れながら、アットホームな雰囲気運営しているということですね。それから、イベントを実行委員会方式で分担してやっているということでしょうか。割と和気あいあいとした雰囲気というのが伝わってくるコミセンです。歴代の委員長の性格とかがあるかもしれないけど。

【副委員長】 ここは規模の問題もあるので、課題には、来てない人の声をどういうふうに聞くかということになっているけど、あまりたくさんの人に来てもらっても困るところがありますよね。

ここに人を集めるというよりは、ここを拠点にして地域にネットワークをつくっていくという発想をするしかないですね。だから大事なものは、そういう地域づくりの視点があるかどうかのような気がします。

【委員長】 前の広場、公園を使うときは手続きを踏まないといけないんですか。

【事務局】 はい。必要になります。イベントには優先的に使っていただいていますので。

【委員長】 そうすると、いつもコミセンのものごとく使ってはいけないわけですね。

【副委員長】 上水北公園ですか。ケヤキのところの雑木林は、あれは公園という位置づけではないんですか。

【C委員】 公園です。中庭からちょっと出たところ、ケヤキの敷地もありますけれども、それ以外の囲いの外は公園です。

【副委員長】 ああいう感じの公園ではないんですか。つまり、ケヤキの場合、利用申請しなくても、あそこの中に一体になっている感じがするんですけど、この場合はちょっと離れているというか、そういう感じなんですかね。

【委員長】 見た目、ほとんど一体です。

【事務局】 いずれもイベントとして使う場合には利用申請が必要になってきますけれども、日常的にちょっとしたことで、子どもが遊ぶとかというのはもちろん大丈夫です。

【副委員長】 そうすると、公園をかなり活用した事業とかをしたほうがいいのかもありません。目立つイベントなどは利用申請をきっちりするけど、

ちょっと子どもを遊ばせたり何かやる分には、そんなにねえ。事故さえ起こらなければ。

【事務局】 それは厳しい管理をしているわけではありません。

【副委員長】 そうですね。条件として非常にそれは有利な条件ですから。そうするとまた幅が広がるんじゃないですかね。

【事務局】 コミセンの皆さんも、自分たちの庭的な感覚でいらっしゃると思います。

【委員長】 そうでしょうね。それと、あそこの環境としては前に巨大な公園があるので、ああいったものも使いながらということも考えていただくと、より広がりが出るかもしれません。

どうもありがとうございました。時間的に、後半特に苦しくなりましたが、今いただいたさまざまご意見やご指摘を取り込みながら、一番上の総括案を、これは私の仕事なので、とりまとめさせていただきます。

もし何か言い忘れたことがあるというときは事務局経由でお伝えいただければと思いますので、よろしくお願いします。

(2) 報告書の目次案について

【委員長】 目次案についてというのがきょうのもう1つ大きな課題ですが、資料2に副委員長につくっていただいた目次案があります。前回事務局から示されたものをベースにしながら書きかえていただいたものですが、全体をごらんいただいて、いかがでしょう。

一番ポイントになるのは、2章と4章というのがポイントかと思います。3のところは比較的、事務的に書ける部分かな。そうでもないですね。3も結構大事ですね。

【副委員長】 趣旨を申し上げますと、基本的には前回の構成案の枠組みをほとんどそのまま生かしていて、中身は大体、当てはめていけばいいと思います。

ただ、工夫している点は、タイトルを、できるだけ中身を出すようにしているということです。2、3に関して、5もそうですけど、基本的にはこういう視点でそれぞれのことを位置づけたらどうかという話です。あと、過去の報告書を見たときに、第三期の評価委員会の役割について、一期、二期との比較でどういう独自性があるのかということがやっぱり大事になってくる。

そのときに、ここでも少し議論しなければいけないのかもしれませんが、タイトルにあるように、コミュニティ政策はある程度定着しているけれども、どうも新しい段階に入り始めているのではないか。その1つのポイントが、2.の2)にあるように、指定管理者制度が導入されたということ

は確かに新しい事態であって、これをどう評価するかということがポイントだということを意識して書いていければいいかなと。

3. については、これはどういう視点で評価するのかということは2と関係するんですが、端的に言うと、コミュニティ協議会の枠組みというのは大事にしながらも、そこに新しい役割を期待するということがやっぱり大事なのではないか。その視点で評価しようというコンセプトにしたらどうかと。中身はそんなに変わってないんですけども、市民参画の拠点、これは自治と言ってもいいんですけども、市民参画の拠点としての評価と、もう一方で指定管理者としてどういう役割を果たすべきかということだと思います。ここら辺を意識して書けばいい。

4はそのままです。

そして、委員の皆さんにある程度お願いしなければいけないかなと思うのは、個別のコミセンの評価とは別に、これからコミュニティセンターやコミュニティ協議会をどういうふうに政策として進めていくのかという提言みたいなものが、最後にあったほうがいいと思うんです。それをまとめるのはなかなか大変ですが、5番目は、思い切って「新しいコミュニティづくりに向けて」ということで政策提言を中心にした形でまとめたらどうかというのが趣旨です。

事務局でかなりつくっていただけるんですが、どうしても最初の委員長の「はじめに」と、最後の提言の部分は委員の皆さんのご意見が改めて別に必要になるものですから、少しこれだけ必要かなという感じがしました。

(3) 意見交換

3 その他

【委員長】 という趣旨でおつくりいただいたものです。

この後の進め方というか日程とも関係するのですが、もう既に2、3のあたりはご準備もあるかと思しますので、具体的に、次はいつごろというようなことをお考えですか？

【事務局】 次回は7月22日。金曜日の夜18時です。

【委員長】 そうすると、そのときには全部報告書案みたいなものが示されるという進行でよいのでしょうか。

【事務局】 そうしたいと思います。例えば、「はじめに」は委員長にお願いをすることで、それから協議会ごとの総括も委員長がお取りまとめいただけるということでしたので、最後の5番のところをどういうふうにするのかということは結構大きな話になりそうかなという気がしているんですが、これをどうしましょうということですけど。

【委員長】　そうですね。もう1つ、4.の3)というところも、課題はきょうの議論でも結構抽出されてきているのですが、その解決の見通しとか方向という話になると、そう簡単ではないかなとも思います。

【事務局】　ここはひょっとしたら、4の3)と5というのはつながるんだろうと思うんですね。

【委員長】　そうなんです。この3があって、3はかなり具体的な話だと思うんですけども、それを総括するような形で今後どうしていくのかということが、最初の2の、この委員会の役割とか指定管理者制度を入れたことによる変化とか、そういうことを絡めながら5が出てくることになるのかと思います。

たたき台を示していただいて、それを元に少し検討するというのが次の課題になりますかね。

【事務局】　そうしますと、例えば、委員長の「はじめに」ですとか先ほどの各個表の総括というのをあらかじめいただいておりますということになるんでしょうか。

【委員長】　そんな感じですね。私がやるべきところはなるべく早くやりますが、1度、4の3)、それから5を含めて、私と副委員長と事務局とで1回打ち合わせを持って、その後、各委員に案を示して22日に集まるという、そんな流れかなと思います。

とは言いながら、もう1カ月弱しかありませんので、後でちょっと打ち合わせの日程調整をしましょう。

宿題的なことは、やっぱり5を考えておいていただくということですね。

【D委員】　B委員、C委員、委員長も第6期コミュニティ市民委員会で去年の1月にまとめたやつがあるわけで、これは抜粋ですけど、かなり、3番、5番はリンクするのではと思います。ある程度方向性がないと、全く新しいのは出てこないなど。

【B委員】　1つ1つ考える形じゃなくて、全部。

【委員長】　きょうの1個1個見ていったのを総括してみたときに、これから武蔵野市のコミセンとしてはどう考えていけばいいんだろうかというような。

【事務局】　例えば、後ほど正副委員長との日程調整をさせていただきますけど、それぐらいまでにほかの委員さんからある程度、宿題みたいなものを出していただいて、そこで一緒にもむという格好に。

【委員長】　その後、連絡はまた個別にさせていただくということで。

【C委員】　5番はどのくらいというか、すごく短くていいのか、何か少し、ある程度。

【委員長】 それはもうそれぞれ自由。もちろん、そのまま載せるということには多分ならないと思うので、長くなったり短くなったりするかもしれませんが、書き方自体は自由に考えていただいてもいいと思います。

4 閉会

きょうは30分も超過してしまいましたけれども、個々のコミセンをじっくり見ましたので、私としてはこれから先の仕事がしやすくなったし、事務局も多分、しやすくなったのではないかと思います。

特にご発言なければ、これで閉じさせていただきたいと思います。どうも、オーバーしてしまいました。ありがとうございました。

―― 了 ――